

## みずほCustomer Desk Report 2017/01/10号(As of 2017/01/09)

## 【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	USD/CHF	GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	117.16	1.0530	123.45	1.0177	1.2257	0.7313
SYD-NY High	117.53	1.0582	123.71	1.0197	1.2270	0.7374
SYD-NY Low	115.95	1.0511	122.43	1.0143	1.2125	0.7289
NY 5:00 PM	116.04	1.0573	122.72	1.0148	1.2159	0.7356
USD/JPY Volatility 1M ATM (NY Close Lvl)	12.815/13.265	△25RR	0.783	Yen Call Over		

NY DOW	19,887.38	▲ 76.42	債券市場	日本2年債	-0.2040	-	
NASDAQ	5,531.82	10.76		日本10年債	0.0590	-	
S&P	2,268.90	▲ 8.08		米国2年債	1.1816	▲2.8bp	
日経平均	-	-		米国5年債	1.8727	▲5.1bp	
TOPIX	-	-		米国10年債	2.3647	▲5.5bp	
シカゴ日経先物	19,475	▲160.00		独10年債	0.2780	▲2.0bp	
ロンドンFT	7,237.77	27.72		英10年債	1.3350	▲4.8bp	
DAX	11,563.99	▲35.02		豪10年債	2.7630	8.2bp	
ハンセン指数	22,558.69	55.68		為替市況	USD/CNH	6.8797	0.0299
上海総合	3,171.24	16.92		ドルインデックス	101.87	▲0.35	
USDJPY 3M Vol	12.75	0.28%	商品市況	CRB指数	190.605	▲2.94	
USDJPY 6M Vol	12.56	0.20%		NY金	1,181.20	7.80	
EURJPY 3M Vol	11.34	0.14%		WTI	51.79	▲2.20	
EURJPY 6M Vol	12.81	▲0.04%		Dubai Spot	53.94	▲1.07	

東京 アジア時間、117.16レベルでオープンしたドル円はじり高の展開。東京市場が祝日となる中、先週末の米12月雇用統計を受けたドル高の流れが継続し、じりじりと上値を切り上げる展開。一時117円半ばを上回る場面も散見されたが、結局117.43レベルでロンドン時間に渡った。尚、先週大幅な元高となったオランダ人民元市場は徐々に落ち着きを取り戻しており、足許緩やかな元安方向に転じている状況。(香港14:30)

ロンドン ロンドン市場のドル円は、117.43レベルでオープン。東京休場で市場参加者が乏しい中、欧州株の軟調推移や、ロシアの外貨準備で円保有の再開が確認されたこと等から、116.61まで下落し、116.68レベルでNYに渡った。ポンド円は、1.2195レベルでオープン。週末、メイ英首相がEU離脱案を数週間以内に発表する方針を示し、単一市場へのアクセス断念を意味することになっても、移民流入管理と立法の権限回復が最優先事項であるとの見解を示したこと等から、ハドブレグジット懸念が浮上。昨年10月以来の安値となる1.2125まで下落し、結局1.2152レベルでNYに渡った。(ロンドンリリース 00531 444 179 山本)

ニューヨーク 週末に行われたメイ英首相のインタビューにおける移民流入管理を欧州単一市場アクセスより優先するとの見解を示したことを受け、ハドブレグジット懸念を背景にポンド円が下落したことから、ドル円は117.53から116.68まで下落しNYオープン。朝方は「本邦製薬会社が米製薬を6200億円で買収合意」とのニュースが流れたもののドル円への反応は限定的となった。その後はロゼングレン・ボストン連銀総裁(2017年FOMC投票権なし)の「次回利上げのタイミングについてコメントするのは時期尚早」との発言が出たが市場への影響は限定的となり、ドル円はロンドン時間の軟調な流れを引き継ぎ116.15まで下落。その後116.56まで反発するが、原油リバ稼働数の上昇を受けて、WTI原油が大幅に下落すると、ドル円は安値の115.95まで下落。しかし115円台ではドル買い意欲もあり、この水準では下げ渋るが、米長期金利の低下、軟調な米株を横目にドル円は116円台前半での上値の重い推移となり、116.04レベルでクローズした。一方ユーロドルは1.0522レベルでNYオープン。ハドブレグジット懸念を受けて、対ポンドでユーロが上昇すると、ユーロドルは1.0582まで上昇。午後は、1.0570付近での推移が続き1.0573レベルでクローズした。

## 【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
1月9日	16:00	独 鉱工業生産(前月比/前年比)	11月 0.4%/2.2%	0.6%/1.9%
	16:00	独 経常収支/貿易収支	11月 24.6B/22.6B	22.1B/20.3B
	23:00	米 ロゼングレン・ボストン連銀総裁講演	-	-
1月10日	2:40	米 ロックハート・アトランタ連銀総裁講演	-	-

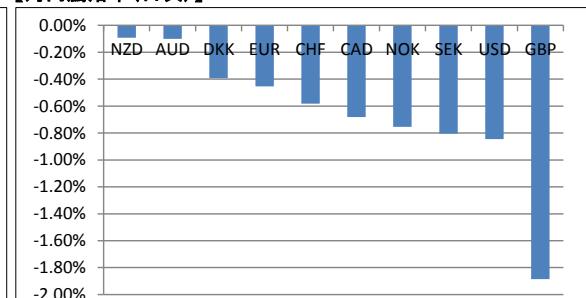
## 【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
1月10日	9:30	豪 小売売上高(前月比)	11月 0.4%	0.5%
	10:30	中 CPI/PPI(前年比)	12月 2.2%/4.6%	2.3%/3.3%
	16:45	独 鉱工業生産(前月比/前年比)	11月 0.6%/-0.2%	-0.2%/-1.8%
	16:45	仏 製造業生産(前月比/前年比)	11月 0.7%/-0.2%	-0.6%/-1.5%

## 【ドル円相場】



## 【対円騰落率(日次)】



## 【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	115.00-116.50	1.0450-1.0650	121.50-123.50

## 【マーケット・インプレッション】

前週末から昨日にかけてのドル円相場は、行って来いの展開。6日金曜の米雇用統計は雇用者数変化こそ市場予想を下回ったものの、平均時給の伸びが強かったことを受けてドル買い優勢の展開に117円台を回復し越過。9日は日本祝日ではあったが雇用統計の結果を消化する過程でアジア時間はじりじりと上値を伸ばし117円半ばまで続伸。しかしながらロンドン入り後は戻し売り優勢となり急速に上げ幅を縮小、116円付近まで下落した。雇用統計の内容は利上げ回数の変更を想起させるものではなかったものの、117円台半ばからバッックしてきており、ドル円の上値は重たくなってきた印象。本日は特段材料視されるようなイベントは控えておらず、上値を試す展開は想定し難い。一方で英国のEU単一市場からの下落懸念などを背景にポジション調整を通じた下値リスクはやはり強まっているように感じられ、下落基調が強まる展開には留意の要。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧説を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

担当:末木・鶴田